

困っていませんか？ 胸焼け・胃の痛み

検査では「異常なし」



かつて日本人に多かった胃潰瘍や十二指腸潰瘍はピロリ菌の除菌治療が進んだことで大幅に減少しました。胸焼けや胃痛などの不快症状を訴える患者さんの多くは逆流性食道炎を含む胃食道逆流症または機能性ディスペプシアが疑われます。

加齢により筋力が低下して食道と胃の吻合部分（つなぎ目）がゆるむと、胃酸が逆流しやすくなります。内視鏡検査で食道粘膜にただれや潰瘍があれば逆流性食道炎と診断されますが、多くの場合胃食道逆流症では異常を認めません。

同様に機能性ディスペプシアも内視鏡検査では異常が見つかりません。原因はストレスや高脂肪食の過剰摂取による胃酸分泌過多、内臓知覚過敏です。

いずれも服薬で症状は改善しますが、自己判断するのは危険です。痛み止めを常用している人も注意が必要です。別の病気が隠れているかもしれません。一度、内視鏡検査を受けましょう。併せて、胃がんの主な原因になるピロリ菌の有無を調べることも大切です。

家崎医院（前橋市） 家崎 桂吾